

刊夕日二十月十

常 報 日 新 報

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五號十行 一頁一元 五號十行 一頁一元
 日 曜 祭 日 の 翌 日 休 刊
 發行所 常 報 日 新 報 社
 東京 市 常 報 日 新 報 社
 印刷所 常 報 日 新 報 社

精進必ず到る

眞 繼 雲 山

鹿を逐ふ獵師は、山を見ないから鹿も獲れるのである。虎と見るゆゑに石に立つ矢さへあるのである。精神一到、何事か成らざらぬといふ古い修身書の諺は、世間法に移しては處世の要道であり、出世間法に約しては實に佛道修行の要諦である。

たとへば俗世間の卑習を見るに、色魔が餘事に成功せず、女にかけては概ね成功するといふのは、彼れは餘念を交へず一心不乱に努力するからであつて、その結果、一かど小利口さうな處女、堅さうな後家、貞淑なるべき人妻も、存外コロリと參るといふのは、石に矢が立つたので知らぬ亭主も、命がけの男には叶はんのである。命がけの努力さへあれば世事、概ね成功する。その命がけの清浄な努力を佛教では精進といふ。精進とは、六波羅密中に説かれた教へである。悪雑なきを精といひ懈怠なきを進といふとあつて一つの道を一心不乱に邁進することである。左様にして到り得た道が三昧である。三昧とは心を一境に住せしめて散亂しないことである。その

三昧に住することが出来れば初めて正しき智慧によつて淨土を觀照することが出来る。心が散亂してをれば淨土は見えない。その雜亂を掃ふたところに淨土は現前するといふのであるからこのくらの簡單な話はない雜亂を掃ふた結果が無念無想であり、大圖鏡であつてそれが淨土の體である。

念佛を申すといふのは、心に佛を念ずることであつて、佛を念ずる以外に雜念なきが念佛である。佛以外

ノ ー ト

▼磨粉に少量のレモン汁を加へて使ひますと、ニームを光らし、油氣をすつかり去ります。

に餘念なくば佛はたしかに見える筈である。その反對に、何時間木魚を叩いておやうとも、子供を叱りつゝ、味噌汁を氣にしつゝ、稱へてゐるのでは謂はゆる空念佛であつて心に佛を念じてゐるのではない。それでは心に佛の宿らう道理はない。親鸞聖人かつて御年五十九歳の四月、かりそめの風邪の氣にて病床に臥された看護も薬も謝して、ひたすら大經を讀みふけりてゐたまふたが、八日目になつて『もうやめる』といつて床を

はすでに佛の體であられたのである。私たちは雜念妄想に生き日々夜々、雜念妄想を掃ふて純一精進し、以て佛道を成就したいものである。

笑 話

▼彼れが負傷した原因 妻「あなた、あたし時々結婚當時の事を思ひ出しますは、あなたは何？……」 夫「倦怠期のあくびをし乍ら、あゝ随分馬鹿な事をしたと思ふ事があるよ」



月 明 集

渡邊 何鳴

蓼科の麓に住みて星月夜風わたる木立木立や星月夜星月夜紫苑の花のゆれやま夕月のさしくる句座の疊かな 門口に汐さしくる月夜かな

秋 雨 集

秋雨や台にひつつくこぼれ萩 窓前の芭蕉明るき秋雨かな 小鳥綱山小舎の灯のほつくと 小鳥綱に霧吹きつけて明けにけり 山霧のながれつゞける野菊かな

ツブシ・金銀 高價買入 修繕 迅速 丁寧 廉價 星野時計店 平三丁目驛前通り

共濟二病院 院長 醫學博士 石山謙 內科 醫學博士 石山謙 小兒科 醫學博士 石山謙 外科 醫學博士 石山謙 喉科 醫學博士 石山謙 皮膚科 醫學博士 石山謙 産婦人科 醫學博士 石山謙 X光線科 醫學博士 石山謙 衛生試験所 醫學博士 石山謙 藥局 醫學博士 石山謙 診療時刻 午前八時より午後五時迄 但急患は此の限りに非ず 平町 磐城共濟會 電話六四一番

看護婦急派 の求めに應じます 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

江戸前料理 紅葉に近き一日の行樂に ぜひ錦水の御重入辨當を 御供させて下さい ぜひ一度御試食下さい ▼出前！迅速！▲ 錦水 電話四五四番

郡下模型飛行機競技大會 昭和七年十月十六日(第三日曜)雨天強風順延 ◎期 所平町第三小學校庭 ◎場 ◎競技方法 タイム滞空競技 ◎賞品 A組一等 掛時計一個以下十等迄 B組一等 大正琴一臺以下 奮て多數參加あらん事を願ふ！ 規定及び詳細は主催店へ御問合せを乞ふ！ 主催 平町 いづみや飛行機材料店 後援 平町 常磐毎日新聞社 東京 ダイヤモンド 模型飛行機 東京研究會

郡内の晩秋蠶出荷

前年より三千貫減少

糸價安を見込んで手控へ

絶好の高値を外す

石城地方の晩秋蠶も十四、五日には出荷終了の見込みで四倉市場では十六日をもって閉場する事に決定したが昨日迄の累計は二万六千四百三十九貫十二万三千五百圓で昨年より二千五百貫の出荷減少を見たが是は繭價不況を見越して掃立を控へた處へ突然の繭高に出遭つた爲蠶種の不足となり絶好の繭高期を外した者が多い處から十六日の閉后廿三四日頃からは晩々秋蠶が例年になく出る模様で其際市場の開場に就いては目下考究中である

した日割は次の如く毎日放課後一時間である
(月)二年、(火)一年(乙)
(水)一年(甲)木三年
(金)四、五年(土)各學年對抗

小學校競技會 石城郡好間赤井第二、小川、湯本の各小學校では来る十四日各々秋季運動會を開催と決定

紛糾の赤井村長

松本氏當選決定

中立派の抜的策戦で

果然自失の三派

前縣會議員若松美三氏を始め草野三郎、田久彌七の三氏が對立抗争し紛糾してゐた赤井村後任村長問題は其の後三派の活動物凄く圓滿解決は全く困難と見られてゐたが突如昨十一日村會召集後任村長の改選を執行した結果中立派が抜的に昇り上げた松本治治氏が絶体多數で當選血みどろの戦を續けてゐた三派議員連齋に油揚げを掠はれた形で果然自失の態

十時より同署會議室に行はれ第三回防火運動當日の宣傳法其他に就いて協議するが當日の協議事項左の如し

平商校が

体育奨励

毎日一時間宛

全校生徒に

平商業校では矢野校長赴任以來全校生徒の体育を奨励する事になり着々準備を進め既に野球グラウンド庭球コート等の修理を終了したが同校では更に全校生徒に徹底的の体育の奨励に努むる事となり十一日職員會議の結果武道(柔剣道)陸上競技、庭球、野球、弓術等各種目に互り科外教授する事になり

組頭會

明十三日開く

既報平警察署管内各消防組の組頭會議は明十三日午前

施肥の合理化講演

石城産業支部が

産業組合石城支部では各農村に於ける施肥の合理化に於て肥料資金の軽減を計る爲め左記の如き日割にて肥料に關する講演會を開催する事となつた

發火演習

來月二十八、九日

磐城中等學校では來月二十八、二十九の兩日一泊の豫定で泉、渡邊村方面に於て上級

豚に豫防注射

依然終息しない豚コレラに

氣を揉む平署

既報平署管内に於ける豚コレラは依然終息せず一日平均五六頭の發生を見て居るので同署では今回縣と協力して豫防の徹底を計る爲め左記日割にて各村の豚に豫防注射を行ふ事になつた

各々家事の手傳をさせ毎月一回宛各家庭より報告を受けて居るが成績頗る良好であると

平百面鏡

共榮漆器店

お客本位の勉強

各産漆器を専門に卸小賣をしてる三丁目元郵便局前通の共榮漆器店では品物を豊富に取揃へて今が買ひ時とばかり宣傳に努めてゐるがお客様本位の勉強振りは一般から大評判

熱心な!

大塚運動具店 専門工場新設

既報石城教育會總集會は來月二十日平第一校で開催の豫定だつたが都合に依り明十三日に繰り上げ開催に決定した尙當日は東京高師附屬小學校主事佐々木秀一氏の講演がある

兒童の

家事手傳

第二校の 自力更生策

平第二小學校では兒童の自力更生策として三學年以上の生に對し去る六月から

生の發火演習を行ふ事になつたが宿舎は渡邊村釜戸小學校と決定した

學校と決定した

平職業紹介所報告

求人部の部

- △農夫 三十五才以下 委細面談(鹿島村某)
- △徒弟 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某蠶屋)
- △職工見習 十六才 尋卒 三圓外仕着(平町某)
- △自轉車修理見習 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- △回求職の部
- △看護婦見習 十七才 看護婦學校出 給料面談(平町某文撰工三十三才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △女中 四十三才 文學を解す 給料面談(平町某)

藤沼醫院

科病柳花科兒小科内 院醫沼藤 應需院入

難波醫院

平町新川町 電話五〇二番

時代の波に乗つた 新田町の花柳界

若い妓達の新興舞踊禮讚に

悦に入る組合當局

幾百年かの永い傳統の殻に籠つて向上しなければ進歩もない時代に取り残された存在物？平町の花柳界舞田の遊廓南町の魔窟街それから新田町の色街は最近時代の寵児カンエー街の目ざましい進出に追ひ詰められて刻々凋落への一歩を辿つてゐるが流石に新田町花街だけは時代の潮流に目覺めたものか今春平小唄が生れて以來古典的な雰囲気からは幾分脱した形で若い藝妓の中には新興舞踊に精進するものもポツ／＼現はれて來た此の新傾向に依然舊套を

脱し切れない置屋の女將や料亭主人は老妓連の中にも相當反對の聲もあるが平藝妓屋組合當局では新興舞踊要望の聲は今に始まつたものでなく組合でも相當考慮はして居ります時代が要求する以上何時までも古い殻に籠つてゐる必要はないのですから出来るだけ積極的に新しいものを取り入れる様に努めてゐるのであります語つて居り若い藝妓達の新興舞踊精進を喜こんでゐる

恩師への見舞金

本日電呈 總額百五十圓

氣の毒な元平第二校訓導四家安男氏に對する見舞金は同校児童から八十二圓を筆

鬼聯隊長講演

來る十五日聚樂館で

赤井出身の若松大佐

既報石城郡赤井村出身前騎兵第二聯隊長若松大佐が去る四日母堂の遺骨埋葬の爲め歸郷した際平町當局では講演會を催す筈であつたが大佐の都合で延期された爲め其後交渉の結果大佐は來る十五日午後一時五十分平着列車で來平午後二時より聚樂館に於いて講演會を催す事となつたので在郷軍人町役場等では講演後午後五時より住吉屋本店に於いて盛大な歓迎會を催す事になつた

リヤカ泥

餘罪白白

苗木や現金 外數件を

昨報石城郡平窪村字中平窪生れ當時上遠野村字山崎居住日雇業福田信定(五)を以てリヤカー窃盜犯として平署で取調中であるが餘罪として同人は去月未より飯野野字北白土矢野恒方より柿苗五十本及同字大平茂春方より時價三十二圓のリヤカー一台同村字南白土館喜一方

可憐息子の捜査願

おかど違ひと言ふ勿れ 親心ろなればこそ

四倉繭市況

出廻終期で出荷薄

飯野村會

救濟決定

求人開拓に成功 總動員當日に二十五名 官廳、會社からは皆無 平紹介所の活動で 名其他二名のみである

去る十日平職業紹介所で行つた求人開拓の總動員當日各係員が全町の官衛會社商店等より求人者を求め歩いた結果男十七名、女八名合計二十五人の求人者を得て大喜びであつたが求人筋を見ると官衛、銀行、會社方面は全然無く僅かに個人商店の八名戸内使用者が七

差押物品 廿日平役場では本年度前期分町税の滞納者四百名金額千五百圓に對しては過般強制執行をしたので來る廿日正

頭平町内有志からの四十一圓女學校在學中の教へ子達からの二十七圓三十五錢合計百五十圓三十五錢に達したので今十二日津田第二校長は金澤、蛭田兩訓導と共に四家元訓導を病床に訪ひ前記見舞金を贈呈した

今十二日平職業紹介所に商賣違ひの様うな家出入の捜査願が飛込んで係員を驚かした事件がある横濱市神奈川區通り七の二六二番番商田邊卯之助長男淺野線合中學四年在學中の英一(七)が去る五月午後の八時頃無断家出をなしたが書置には平地方で一旗擧げるとあつたから同紹介で何處に就職の斡旋をした事はないかと云ふ譯には可愛息子の事警察署の御世話は出来るだけ避けたいとあつて前記紹介所へ飛込んだとはもつともな話

四倉繭市場十一日の取引は總數四百四十八貫、最高五十五圓、最低三十九圓、馴五十圓八十錢と下向歩調を示し愈々出荷減少した

石城郡飯野村では昨十一日村會を開催し匡救土木工事に依る七年度歳入追加の件外數件を協議した

八時頃同町神明町カフェー大平軒方で二圓餘の飲酒をなした揚句來客で混雑したのを奇貨として無銭飲食逃走したが本町通りまで追跡した前記カフェーのヨツクに押へられて其筋に突出された

明日の部

今映も明日も 西の風晴れ

- 後六、〇〇(子供の時間) 觀察物語「身体不思議」 小林茂男
- 後七、三〇 講演「農家の副業と薬用植物」熊本薬學專門學校校長藥學博士村山義温

明日の部

- 後八、〇〇 連續講談「關根彌次郎」第二席田邊南龍
- 後八、三〇 放送舞臺劇「戀飛脚大和往來」大阪歌舞伎座より中繼 中村雁治郎一座
- 後九、三〇 時報 全國ニエース 氣象通報 番組豫告

明日の部

- 前九、一〇 料理献立「すいきと枝豆の胡麻酢味噌」一戸伊勢子
- 前二〇、三〇 家庭講座「家庭に於ける工業常識」(一)東京府立實科工業學校長 津田信良
- 後〇、〇五 錦琵琶「屋島の譽」諏訪櫻慶
- 後二、〇〇 家庭大學講座「倫理學道德上の因果」東京帝大講師 大島正徳
- 後二、二五 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」(豫備日)明治神宮外

幼稚園

大浦最勝院 住職が新設

石城郡大浦村最勝院阿部住職は豫てより四倉町に幼稚園を設置すべく運動中であつたが近く五千圓を以つて舎屋を起工する事となつた

明日の部

- 苑球場より中繼
- 後六、〇〇 子供の時間 漫畫劇 第三「からす勘吉」漫畫劇場
- 後七、三〇 講演「時代要求と國字問題」星野行徳
- 後八、〇〇 放送舞臺劇「阿閉掃部と青木新兵衛」前進座河原崎長十郎一座
- 後八、三五 哥澤「口舌して外 哥澤芝へ田外
- 後八、五〇 連續講談「關根彌次郎」第二席 田邊南龍
- 後九、三一 滿洲より講演 執政府諮議 中島多比吉



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第百七十三席 平手造酒

繁藏の許へ

平手造酒は女中に命じ猶も酒肴を取寄せ、又飲んでゐたが

造「これそれに居る奴、主人か番頭かそれは知らぬが服装を粗末なればとて此家へ參つて酒を飲む者は皆客だぞ、服装の善惡にて取扱を異に致すとは不埒至極、以來は氣を附けろ」

と叱り付けられて主人はビョコ／＼頭をさげて帳場格子へ額を叩へてゐる、所へ例の男が

○「旦那は何れの御藩でございますか」
と問はれて造酒はニッコリ笑ひ

造「俺は藩士ではなす」
○「それでは御浪人でございますか」
造「左様さ、仕へる主がなければ浪人であらうか、青空を天井となし地のある所を座敷とする、申さば天竺浪人、風の間に／＼瓢々乎として飛んで行く」

○「旦那は面白い方でございます、して何處へお出になりますか」
○「下總の銚子の傍に飯岡と申す所があるさうだ、それに居る助五郎と云ふ者が

許へ參るつもりだ」
○「へエ左様でございますか、旦那は助五郎を御存知でございますか」
造「イヤ會ふた事はないが關東にては屈指の俠客と聞いて、當分それへ食客致すつもりだ」



○「して旦那のお名前は何かと仰せられますか」
造「俺は神田お玉ヶ池千葉周作と申す剣法者の弟子で平手造酒と云ふ悪戯者だ」
○「左様でございますか、豫て旦那のお名前は度々承つて居りました、千葉先生

のお弟子で平手様は先生に優つた腕前があり、あの道場では麒麟と申す程の達人と云ふ事は耳にいたして居りました」
造「麒麟といはれる程豪くはないが、他の奴等が餘りとは申せ未熟故、俺が出来るやうに見える、世の中の奴は俺を買ひ被つて居る、所で貴公は只者ではないナ歟を擔いで農作をする人物ではなし、と云つて算盤秤量の目をせり一貫に就き百文の利を見ると云ふ商人でもなささうだ、さりとて旅賦でもあるまい……」
○「これは恐れ入りました

○「先生のお目に肥て居ります、お察し通り私は天下のお寶を玩具にして腰に長脇差を打ち込み賭場に入入りをして盆の垢を嘗めて生きて居る者でございます」
造「ウム、さうか、仍且俠客の群に居られるか」
○「へエ、私は下總香取郡笹川に居ります岩瀬の繁藏の子分で夏目の新助と申します、今度江戸へ用事があつてその歸途、此處で先生にお目にかゝりました幸何と笹川にお出でなすつて若い者に劍術を教へて下さる事はなすめえか、さうなりますれば親分も定めし喜ぶ事で御座いませう」
造「それは參つても宜しい所で聞いて置くが貴公の親分繁藏と助五郎とは何れが優り居るな」
新「へエ助五郎は銚子の御陣屋から十手と捕縄を預かり申して今では子分の五百人も御座います、關東で名高い親分、それに比べると私の親分は役者が一枚下で御座います」
と正直に物語る

○「ウーム、助五郎より繁藏は劣つて居ると申すか、なる程、然し新助とやら、助五郎は銚子の陣屋より十手捕縄を預つて居る上は悪い者を捕へるが職だ、それが何うして賭場を開帳してその上り高を得やうとする、不埒な奴だ、それに引換へ繁藏は交り氣のない生一本の博奕打、よし助五郎の許へ參るを見合して貴公の親分の許へ參る事に政

す」
新「エツ、それは本統で御座いますか、それは有難い事で、定めし親分の喜ぶ事でお一ツ召上れ……」
と又酒になつたがア出かけませう、と新助が勘定をして造酒を同道でこゝを出て、途中一晩泊つて香取郡笹川に入つて來ました。

三井タクシ

平町二丁目

電話六八五番

御用命は總て印刷物
常磐毎日印刷株式會社
電話六〇三番

りん病 永らく悩む人の福音
天下の名湯別府温泉で出來た無効返金責任藥
岩瀬別府温泉
全圖知名新聞 こんなヨイクスリを未だ知らな
雜誌 推奨 い方がありませうか
右は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし
慢性淋病、こしけ、濁濁の病みは不思議に止り連服
するも絶對胃腸傷害なき各業であります
尙ほ此の藥は責任速効藥で二日内服して効なき時は
殘藥引換に全部異議なく返金します
論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。慢
性、悪性の人は七日以上服差して下さい。
美本淋病治療書無代進呈 此の新聞各記入申込者に
付前金申込者には送料無料、新品送藥す。
代金引換廿三錢手数料金納の事。

吉田眼科病院

平町星町、電話六八番

院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄

平町田町 電話五一三番

外科花柳病科
耳鼻喉科
レントゲン科

手販賣 阿康藥舖
縣社ノ下(電話四四番)

藥價 慢性用(赤箱) 一週分 參圓
急性用(黒箱) 一週分 參圓
特約 平町古鍛冶町一〇
手販賣

高久病院

院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄

平町田町 電話五一三番

内科小兒科
耳鼻喉科
外科花柳病科
レントゲン科

木村病院

平新川町十九

院長 木村寅次郎

産婦人科
婦人科
内臓外科
整形外科
泌尿器科

醫學士 内木宗八